

2023年11月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年4月3日
東

上場会社名 川口化学工業株式会社 上場取引所
 コード番号 4361 URL <https://www.kawachem.co.jp>
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山田 秀行
 問合せ先責任者(役職名) 取締役経理部長 (氏名) 本間 義隆 (TEL) 048-222-8024
 四半期報告書提出予定日 2023年4月10日 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年11月期第1四半期の連結業績(2022年12月1日~2023年2月28日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年11月期第1四半期	2,051	5.6	46	△59.2	45	△61.0	41	△56.8
2022年11月期第1四半期	1,943	7.3	114	9.8	117	12.6	95	20.9

(注) 包括利益 2023年11月期第1四半期 46百万円(△49.5%) 2022年11月期第1四半期 92百万円(1.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年11月期第1四半期	33.77	—
2022年11月期第1四半期	78.24	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年11月期第1四半期	8,236	2,397	29.1
2022年11月期	8,321	2,411	29.0

(参考) 自己資本 2023年11月期第1四半期 2,397百万円 2022年11月期 2,411百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年11月期	—	0.00	—	50.00	50.00
2023年11月期	—	—	—	—	—
2023年11月期(予想)	—	0.00	—	50.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年11月期の連結業績予想(2022年12月1日~2023年11月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	4,500	14.0	120	△47.0	120	△49.0	80	△55.3	65.71
通期	9,000	7.5	250	△14.9	250	△17.4	180	△17.8	147.85

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社、除外 一社

期中における重要な子会社の異動に関する注記

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用に関する注記

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

会計方針の変更に関する注記

- (4) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
② 期末自己株式数
③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2023年11月期 1 Q	1,220,000株	2022年11月期	1,220,000株
2023年11月期 1 Q	2,531株	2022年11月期	2,436株
2023年11月期 1 Q	1,217,469株	2022年11月期 1 Q	1,217,564株

発行済株式数に関する注記

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9
(収益認識関係)	10
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く事業環境は、エネルギー価格及び原材料価格の高騰、米中関係が依然として緊張状態にある中、ロシアによるウクライナ侵攻が継続しインフレ圧力が長期化しています。

米国では、景気回復が堅調に推移していましたが、エネルギー価格などの物価高騰が深刻な問題となりました。また、インフレ抑制のため急激な金融引き締め政策が進められ、景気回復の勢いが鈍化し減速の兆しが表れています。

中国においては、ゼロコロナ政策を緩和したものの、景気の悪化に歯止めがかからない状況が続きました。

日本経済も、個人消費、輸出を中心に緩やかな回復基調が続く中、エネルギー価格及び原材料価格の高騰は継続しており、円安基調は輸出中心の企業の業績を後押しする半面、個人消費の悪化をもたらしました。

当社グループに関係の深い自動車産業においては、世界的な半導体不足の影響が残るものの国内自動車生産台数は前年同期を上回る状況となりました。

このような環境の中、当社グループは2022年を起点とする中期経営計画（第121期「2022」から第125期「2026」まで）をスタートし、その中で設定した目標の実現に向け、これまで培ってきた当社が得意とする合成技術を活用し、受託合成品の拡大、品質・技術に優位性を持つ医療用ゴム用途製品、医療用途脱水縮合剤の製造販売に注力、成長分野での市場拡大を積極的に進めました。

一方、生産においては需要の変化に迅速かつ柔軟に対応しつつ採算性を重視し、より一層の経営資源の効率化とコストダウンを全社規模で取り組みました。

また、原材料価格、エネルギーコスト及び物流費高騰により利益確保が厳しい状況の中、コスト上昇に応じた製品への価格転嫁に総力を挙げて推進致しました。

ゴム製品の販売は、自動車関連の国内外での顧客における在庫調整と、中国市場の低迷の影響を受け、販売数量は前年同期を下回りましたが、価格改定の効果もあり、売上高は前年同期を上回りました。中間体、その他製品については、売上高は前年同期を上回りましたが、樹脂製品については売上高は前年同期を下回りました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は20億51百万円（前年同期比5.6%増）、営業利益は46百万円（同59.2%減）、経常利益は45百万円（同61.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は41百万円（同56.8%減）となりました。

セグメント業績の概況は次のとおりであります。

①化学工業薬品事業

売上高は20億42百万円（同5.6%増）、セグメント利益(営業利益)は38百万円（同63.5%減）となりました。

②不動産賃貸事業

売上高は9百万円（同0.5%増）、セグメント利益(営業利益)は7百万円（同0.6%増）となりました。

(化学工業薬品事業の部門別の概況)

<ゴム薬品>

ゴム薬品の分野において、国内の工業用品向け製品は、自動車関連産業の世界的な半導体不足が緩和したものの、関連製品の在庫過多による顧客での生産調整の影響を受けました。その結果、売上を増やした製品もありましたが、自動車部品関連向け製品全体では売上が減少しました。

また、医療用ゴム用途製品は、特需が一段落し販売が減少、売上は前年同期を下回りました。タイヤ向け製品は、顧客の稼働が減速し始め販売数量は前年同期を下回りましたが、売上は前年同期を上回りました。合成ゴム向けは、顧客における生産調整の影響を受け主要製品の売上が減少しましたが、販売を伸ばした製品もあり全体では売上は前年同期を上回りました。

海外向けは、中国での自動車産業の減産影響を強く受け、自動車部品用途製品の販売が減少しました。タイヤ用途向け製品の販売は増加、当社が得意とする医療用ゴム用途製品は需要が減速、売上が減少しました。

この結果、国内・輸出合わせてのゴム薬品部門合計の売上高は1億13百万円（前年同期比0.1%増）となりました。

<樹脂薬品>

樹脂薬品の分野は、国内向けについては、主要顧客であるアクリル酸・アクリル酸エステルの需要が減速し販売数量が減少しましたが、主要製品である重合防止剤の価格改定の効果もあり売上は増加しました。海外向けは、アクリル酸・アクリル酸エステル向け重合防止剤、電子材料関連向け製品共に、売上は前年同期を下回りました。

この結果、樹脂薬品部門合計の売上高は2億22百万円（同10.4%減）となりました。

<中間体>

中間体部門においては、農薬中間体は、販売が好調に推移し売上が前年同期を大きく上回りました。医薬中間体は、市場の需要に迅速に対応し販売を伸ばした医療用途脱水縮合剤もありましたが、全体では売上は前年同期を下回りました。界面活性剤中間体は、顧客の需要が回復し売上は前年同期を上回りました。

この結果、中間体部門合計の売上高は3億15百万円（同10.1%増）となりました。

<その他>

品質・技術に優位性を持つ電子材料用途脱水縮合剤の販売は、顧客要望に対応した結果、前年同期を上回りました。

環境用薬剤においては、需要の増加に迅速かつ柔軟に対応したことにより販売を増やし売上は前年同期を上回りました。レンズ用途向け特殊添加剤は需要増に対応し売上を増やしました。また、当社が得意とする合成技術を基盤とする製品の販売に注力し電子材料向けの売上を大きく伸ばしました。

この結果、この部門合計の売上高は3億91百万円（同36.7%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における資産につきましては82億36百万円となり、前連結会計年度末に比べ85百万円減少いたしました。これは主に、現金及び預金が46百万円、受取手形及び売掛金が34百万円減少したことによります。

負債につきましては58億39百万円となり、前連結会計年度末に比べ71百万円減少いたしました。これは主に、短期借入金が4億円増加したことに対し、支払手形及び買掛金が1億79百万円、流動負債その他の未払費用が1億95百万円、設備支払手形が87百万円減少したことによります。

純資産につきましては23億97百万円となり、前連結会計年度末に比べ14百万円減少いたしました。これは主に、利益剰余金が19百万円減少したことによります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年11月期の連結業績予想につきましては、2023年1月13日に公表いたしました連結業績予想数値からの変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年11月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	910,919	864,212
受取手形及び売掛金	2,853,489	2,819,374
商品及び製品	1,117,901	1,145,932
仕掛品	442,041	424,768
原材料及び貯蔵品	498,946	501,419
その他	67,670	33,322
貸倒引当金	△4,850	△4,792
流動資産合計	5,886,119	5,784,238
固定資産		
有形固定資産		
機械装置及び運搬具(純額)	1,103,098	1,057,419
その他(純額)	1,112,227	1,164,216
有形固定資産合計	2,215,325	2,221,636
無形固定資産		
その他	16,895	23,599
無形固定資産合計	16,895	23,599
投資その他の資産		
その他	204,484	207,993
貸倒引当金	△1,300	△1,300
投資その他の資産合計	203,184	206,693
固定資産合計	2,435,405	2,451,930
資産合計	8,321,524	8,236,168
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,637,355	1,457,875
短期借入金	1,960,000	2,360,000
1年内返済予定の長期借入金	100,801	90,006
未払金	338,236	305,306
未払法人税等	29,869	11,165
未払消費税等	—	32,690
賞与引当金	—	41,733
役員賞与引当金	16,500	3,375
その他	339,654	68,196
流動負債合計	4,422,416	4,370,349
固定負債		
長期借入金	965,318	949,484
役員退職慰労引当金	102,690	73,890
退職給付に係る負債	290,979	301,782
その他	128,773	143,509
固定負債合計	1,487,760	1,468,665
負債合計	5,910,177	5,839,014

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年11月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年2月28日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	610,000	610,000
資本剰余金	58,437	58,437
利益剰余金	1,686,444	1,666,689
自己株式	△8,202	△8,202
株主資本合計	2,346,679	2,326,924
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	27,233	31,309
為替換算調整勘定	37,433	38,919
その他の包括利益累計額合計	64,667	70,229
純資産合計	2,411,347	2,397,153
負債純資産合計	8,321,524	8,236,168

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2021年12月1日 至2022年2月28日)	当第1四半期連結累計期間 (自2022年12月1日 至2023年2月28日)
売上高	1,943,437	2,051,990
売上原価	1,542,052	1,719,648
売上総利益	401,385	332,342
販売費及び一般管理費	287,380	285,837
営業利益	114,004	46,504
営業外収益		
受取利息	458	629
受取配当金	1,246	1,258
貸倒引当金戻入額	15	58
受取補償金	2,384	—
為替差益	2,477	—
その他	1,686	2,093
営業外収益合計	8,268	4,039
営業外費用		
支払利息	4,386	4,333
為替差損	—	222
その他	21	15
営業外費用合計	4,408	4,572
経常利益	117,864	45,971
税金等調整前四半期純利益	117,864	45,971
法人税、住民税及び事業税	23,083	6,258
法人税等調整額	△475	△1,405
法人税等合計	22,607	4,853
四半期純利益	95,256	41,118
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	95,256	41,118

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年2月28日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年2月28日)
四半期純利益	95,256	41,118
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△7,231	4,076
為替換算調整勘定	4,502	1,485
その他の包括利益合計	△2,729	5,561
四半期包括利益	92,527	46,680
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	92,527	46,680
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

当第1四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年2月28日)
(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用) 「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。これによる四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

当第1四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年2月28日)
(新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う会計上の見積りについて) 前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う会計上の見積り及びその仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2021年12月1日 至 2022年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益計算書計上額(注)
	化学工業薬品事業	不動産賃貸事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	1,933,940	—	1,933,940	—	1,933,940
その他の収益	—	9,497	9,497	—	9,497
外部顧客への売上高	1,933,940	9,497	1,943,437	—	1,943,437
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,933,940	9,497	1,943,437	—	1,943,437
セグメント利益	106,408	7,595	114,004	—	114,004

(注) 1. セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号)に基づく不動産賃貸収入等であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2022年12月1日 至 2023年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益計算書計上額(注)
	化学工業薬品事業	不動産賃貸事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	2,042,442	—	2,042,442	—	2,042,442
その他の収益	—	9,547	9,547	—	9,547
外部顧客への売上高	2,042,442	9,547	2,051,990	—	2,051,990
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,042,442	9,547	2,051,990	—	2,051,990
セグメント利益	38,859	7,645	46,504	—	46,504

(注) 1. セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号)に基づく不動産賃貸収入等であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第1四半期連結累計期間(自 2021年12月1日 至 2022年2月28日)

(単位:千円)

	報告セグメント		
	化学工業薬品事業	不動産賃貸事業	計
顧客との契約から生じる収益	1,933,940	—	1,933,940
ゴ ム 薬 品	1,113,146	—	1,113,146
樹 脂 薬 品	248,277	—	248,277
中 間 体	286,204	—	286,204
そ の 他	286,311	—	286,311
その他の収益	—	9,497	9,497
外部顧客への売上高	1,933,940	9,497	1,943,437

当第1四半期連結累計期間(自 2022年12月1日 至 2023年2月28日)

(単位:千円)

	報告セグメント		
	化学工業薬品事業	不動産賃貸事業	計
顧客との契約から生じる収益	2,042,442	—	2,042,442
ゴ ム 薬 品	1,113,751	—	1,113,751
樹 脂 薬 品	222,395	—	222,395
中 間 体	315,045	—	315,045
そ の 他	391,250	—	391,250
その他の収益	—	9,547	9,547
外部顧客への売上高	2,042,442	9,547	2,051,990

(重要な後発事象)

該当事項はありません。